

昨日の雨もあがり、暖かな日となりました。

今日の朝日新聞の「天声人語」に「人との距離の取り方」について書いてあります。内容を抜粋すると『感染拡大を防ぐにはどれほどの距離を取るべきなのか。厚労省が推奨するのは2m。ソーシャルディスタンス（社会的距離の保持）は今や世界共通語。先ごろWHOがこれをフィジカルディスタンスと言い換えた。「体は離れても心の結びつきは失わないで」と担当者。寄るな、触るなという訴えが先行しがちだが、だれも孤立させることなく難局を乗り切りたい』

このところ、電車に乗っても他の人との距離を取っている自分があります。時々会って、食事したりして大笑いする友達とも会えない日々が続いています。

このような中、このところ、田舎の友達や先輩、地方に住んでいる友達が心配して連絡をくれます。「東京は大変そうだけど、大丈夫？」「何か足りないものがあったら送るよ」「ともかく元気でがんばろう」等々、心温まる言葉をかけてくれます。本当にうれしく思います。遠くからも気にかけてくれている人がいると思うと、元気が出ます。年に1回会うかどうかの人たちでも、こうやって心配してくれているのは、本当にありがたいことです。「ありがとうございます。」

どんな時でも、心配してくれている人がいると思うと頑張れますね。何気ない一言が元気をくれます。何気ない一言が言える人になりたいと思います。互いに温かい言葉を掛け合えば、互いに幸せな気持ちになります。

## 七中生へのメッセージ（4月21日）

2月末から休校に入り、早2ヶ月が過ぎようとしています。途中、何度か皆さんが登校する日はあったものの、こんなに生徒と関わらない時間を過ごしたのは、教員人生で初めてです。先生は今、自宅で仕事をしながら家族との時間をゆっくり過ごしています。毎日我が子たちと1日を共にしていると、学校で働いているときには見えていなかった苦労がたくさんあり、自然と感謝の気持ちが芽生えてきます。

さて、皆さんは自分の力だけで大きくなったわけではありません。皆さん1人1人がもっている成長する力を、たくさんの人に支えてもらい、家族に愛されながら大きくなったのです。中学生の皆さんにとって、家族は愛すべき存在であるとともに、口うるさく、時にうっとうしい存在かもしれません。外出自粛が叫ばれ、保護者の方も在宅勤務に切り替わった方が多いのではないのでしょうか。家の中で顔を合わせる時間が増えれば増えるほど、嫌な部分が見えてしまうこともあるでしょう。それでもやはり、家族と一緒にいられる時間は貴重な時間なのです。

中学生の皆さんは、幼かった頃と比べて、自宅で家族と過ごす時間が非常に短いはずです。こんな時だからこそ、家族との時間を大切にし、たくさん会話をしてみましょう。そして、家族のために何かをして、家族に感謝の気持ちを伝えてみてください。この辛い期間を、皆さんの大切な人たちと、温かな気持ちで乗り越えてほしいと願っています。

1日でも早く、当たり前前の日常に戻り、皆さんと学校で過ごせるようになることを楽しみにしています…。学校が再開したら、元気な顔で登校してください。それまでもうしばらく、お互いに頑張りましょう！！

（ 3 ） 年 （ 宮下 直毅 ）